

令和元年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

整理番号

4 - 2 - 6

事務事業名	観光・イベント振興事業				担当課係	商工観光課 企業振興・商工観光担当	
総合計画上の位置付け	政策	③ 未来への活力を育むまちづくり			記入担当者	上原 徹也	
	基本目標	7. 活気あふれるまちづくり			内線等	431	
	施策	7-2 観光交流によるにぎわい創出			E-mail	syoukou@city.komatsushima-i.tokushima.jp	
	基本方針	7-2-1 観光の振興					
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）				事業区分	経常事業	
事業予算費目	款	7	商工費	項	1	商工費	
	目	4	観光費	事業	2	観光・イベント振興事業	
開始年度		年度	根拠法令・要綱等				

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	(誰の、何のために事業を実施するのか) 市民及び圏域内住民、観光客	
事業の目的 (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) 観光イベント等を行い、観光客を呼び込むことにより、地域の賑わいの創出や観光・交流の場を広げ、地域や観光地等の活性化につなげるとともに、観光案内所運営、観光イベントの実施、ボランティアガイドの育成、マスコットキャラクターを活かした観光PR等により、観光客の多様なニーズに応え、観光客の増加を目指す。	
事業の内容 (内容・手法等)	(どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) 小松島港まつり等の観光イベント主催団体への補助や、本市地場産品による新しい特産品の開発を目的とした「売れる！特産品づくり講座」の開催、また、小松島観光物産検討会を設置による小松島市観光ビジョンを作成し、今後の方向性を検討する。徳島東部地域市町村が有する自然や歴史・文化等、様々な観光資源の発掘・魅力向上を図ることで、圏域での観光エリアを形成し、宿泊、体験型観光、地元素材の特産品化など、長期滞在型観光を実施し、関連産業の振興を図る。また、東部地域の行政や関係機関の連携による、一般社団法人イースト徳島観光推進機構が設立されたことにより、域内で連携し観光振興の推進を図る。	
事業の背景 (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 「小松島港まつり」をはじめ、観光イベントは市民・県民に定着しており、毎年多くの観光客が訪れていることを踏まえ、本市の魅力を高める観光資源創出事業の実施にあたり、地場産品を使った日持ちのする特産品や、体験型観光商品等の開発を進めている。また、地方における急速な人口減少・少子高齢化が進むなか、地方への人口定住を促進するために、魅力ある圏域づくりを目指して、徳島東部地域の連携による観光振興事業に取り組んでいる。	

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名			指標の説明				指標化できない成果 観光客の心証・満足度 市民の定着度、期待度
	単位	イベント集客数及び観光案内所利用者数		小松島港まつり集客人数及びJR南小松島駅内観光案内所利用者数				
		H30	R1	R2	R3	目標年度 目標値		
人	目標	133,000	88,000	-	-			
人	実績	133,629	86,289					
	達成度	100.5%	98.1%					

活動実績・参考となる指標	指標名	単位	H30	R1	R2	R3	指標の説明
	小松島港まつり集客人数 (阿波踊り大会)	計画	人	20,000	5,000	5,000	5,000
実績		人	20,000	3,000			
小松島港まつり集客人数 (花火大会)	計画	人	110,000	80,000	80,000	80,000	(計画)は目標 (実績)は公式発表人数
	実績	人	110,000	80,000			
観光案内所利用者数	計画	人	3,000	3,000			
	実績	人	3,629	3,289			
	計画						
	実績						

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

(単位:円)

全体コスト (円)	関連事業費	H30年度決算		R1年度決算		R1年度予算		R2年度予算		
		A	B	A	B	A	B	A	B	
A	財源内訳	直接事業費	30,350,503	35,467,337	37,499,000	27,613,000				
		国県支出金	8,621,961	8,285,541						
		地方債								
		利用者負担								
	B	一般財源	21,728,542	27,181,796						
		人件費 ①×②	2,771,691	3,261,747						
	B	職員平均人件費①	5,543,382	6,523,493						
		従事した割合②/人	0.50	0.50						
	A + B		33,122,194	38,729,084						
	単位コスト	活動指標の説明		イベント集客数及び観光案内所利用者数 133,629人	イベント集客数及び観光案内所利用者数 86,289人					備考
活動指標 1 単位当たりコスト		248	449					平成30年4月1日現在 人口38,156人		
市民一人あたりのコスト		868	1,025					平成31年4月1日現在 人口37,795人		

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) イベント開催等を通じ、観光客が本市に訪れる機会とすべく、特産品や観光商品等の醸成が必要であるため、各関係団体とも連携をしながら観光資源の創出を図る必要がある。また、徳島東部定住自立圏構想による事業を実施しており、観光振興事業として他市町村と連携し、より効果的に事業推進できることが期待される。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 小松島港まつりをはじめ、その他の観光イベントも市内外に定着しており、観光資源に限られている本市においては、イベントを効果的に開催するとともに、市内の観光資源のブラッシュアップにより、新たな観光資源の創出を図ることで、市内事業所や市民への経済効果が期待される。また、徳島東部地域市町村が連携することで、情報交換や発信が円滑に可能となることに対する期待は大きい。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	本市の観光資源を生かしたイベントの充実を図り、地域の観光資源を発掘・発信することは、地域の活性化や賑わい創出に不可欠である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	観光の振興と交流の推進、市のPRを図るためには、市の支援が必要不可欠であり、東部地域市町村の連携事業においては、会員である市が調整、連絡、発信役として取り組む必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいか、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	イベント実施に当たっては、主催団体に対し直接支援しており、東部地域市町村と連携して情報発信やPRをすることにより、注目度などの観点からも効率性が図られている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	小松島港まつりは、県内外からも多くの来場者があることから、本市の観光や特産品をPRする機会であるとともに、新たな観光資源を創出することは、イベントのみならず観光客を呼び込む機会となるため、その優先度や必要性は高いといえる。また、東部地域市町村との連携事業として継続して情報発信やPRに取り組んでおり、他市との連携の観点から必要性は高い。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	本市の観光地や特産品などのPR活動を実施するなど、イベント等を通じ連携して県内外へ周知を行っている。また、南小松島駅に設置した観光案内所の利用者も引き続き増加しており、観光ボランティアの養成も進んでいることから、観光振興が図れている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	イベントの開催については、運営費の確保と同時に、内容の充実や規模の拡大等が今後の課題となる。本市を訪れる観光客は、通過型観光が多いため、特産品を供するレストランを増やしたり、体験型観光を強化するなどして、市内に少しでも長く滞在してもらえる工夫づくりが必要である。観光コンテンツを広く情報発信するためには、県内外への情報発信が不可欠であることから、関係地域との連携を強化しつつ、東部地域市町村との連携事業を継続していく。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
2		3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点	評価点	本市の地域活性化やにぎわい創出に繋がる事業であり、県内外から観光客の入込みが見込めるため、波及効果も期待できる。また、域内の市町村が連携してPRをすることで、より効果的に本市の観光振興を図ることができる。
		4 終期設定し終了	20 ~ 39 点	2	
		5 完了・休止・廃止	19 点 以下		

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
2		3 改善・効率化し継続	市の財政状況や経済・社会情勢等を十分に勘案しながら、来場者のニーズ、本市への経済効果等を、幅広く検討する必要がある。また、関係地域全体で連携・交流をすることで、観光客に対し、より広く効率的に本市のPRを実施することが期待できることから、圏域内情報を積極的に活用し、観光者の多様なニーズを把握するためにも、継続していくことが望ましい。
		4 終期設定し終了	
		5 完了・休止・廃止	